

安倍元首相暗殺現場の疑問

作成日 2022年7月20日

銃弾で撃たれた時、その弾丸は体を貫通するか、体内に留まるかである。体を貫通すれば、弾丸が体に入る射入口と弾丸が体から出て行く射出口の二つの銃創が体の外面に残る。弾丸が体の中に留まれば、体の外面に残るのは射入口だけだが、弾丸が体の中に残る。

奈良県警は安倍晋三元首相の司法解剖結果を次のように発表した。左上腕と首に銃弾が1発ずつ入った痕が確認された、このほか首に別の傷があったが、銃弾によるものかはわからない、致命傷になったのは左上腕から入った銃弾1発で、左右の鎖骨下にある動脈を傷つけたことによる失血死だったと言った。この発表だと、射入口が左上腕と首に一つずつあったが、射出口はなかったということである。それなら、弾丸が2個体内から見つからなければならない。しかし弾丸が体内から見つかったという発表はない。首の銃創を射出口と考え、左上腕から入った銃弾が左右鎖骨下動脈を損傷し、首から射出したと考えれば、弾丸が体内から見つからないことは説明できる。しかし弾丸が左上腕から入り、体内を通過し、左右鎖骨下動脈を損傷したのだから、左右鎖骨下動脈の損傷した部分と左上腕の射入口とは弾丸の通過道でつながっている。それで左右鎖骨下動脈の損傷で噴出した動脈血は左上腕の射入口から溢れ出す。もし首の銃創が射出口ならば、首の銃創からも動脈血が溢れ出す。この場合の救急処置は圧迫による止血である。ところが安倍元首相が倒れている写真を見ても、動脈を損傷したような激しい出血は見られていない。出血死するほどの激しい出血なら、顔面蒼白となり、唇にチアノーゼが見られるがそれもない。心臓が停止したとのことで心マッサージをしているが、左右鎖骨下動脈を損傷しても、心臓は停止しない。心マッサージの必要はないはずである。解剖所見と現場の状況がまったく合わない。

救急治療にあたった奈良県立医科大付属病院の福島英賢教授は言う。「銃の傷は正面の首のほぼ中央部分と、5センチほど右側の2か所にあり、体内に2発の弾丸が入ったとみられる。左肩の前部にも傷があり、首から入った弾丸が貫通していった可能性がある。心臓の壁に穴が開いており、1発が心臓に達していた。」

福島教授によると、首に2つの射入口があり、左肩前部にも銃創あった。福島教授は左肩前部の銃創は射出口だろうとする。銃弾の1つは心臓に達し、心臓の壁に穴が開いていたとのことだから、心臓を撃たれたことにより心停止となり死亡したのである。これなら現場で心マッサージをしたことも納得できる。ただ弾丸は体内で確認できていない。福島教授の説明で疑問に思うのは、弾丸が首から入り、心臓に達するためには、首の上から下に向けて撃たなければならないことである。安倍元首相は台の上におり、山上容疑者は地面の上に立っていた。山上容疑者の位置からは、安倍元総理の首の上から、下に向けて撃つことができないのである。山上容疑者が水平に撃った弾丸が安倍元総理の鎖骨にあたり、そこで角度を変え、心臓に向かったのだと考えることもできるかもしれない。しかし鎖骨は折れやすい骨であり、弾丸が当たれば、まず折れるのでないか、弾丸の方向を変えるほど強いだろうかと思う。鎖骨に弾丸が当たれば、少なくとも何らかの跡が鎖骨に残るはずであり、解剖ではそういう報告はなかった。福島教授の言うようなら、山上容疑者は犯人でなく、真の犯人は別にいることになる。プロのスナイパーがビルの上から撃ったか、安倍元首相の介護にかけよった者が、介護を装い、消音銃で首から心臓に向けて撃ったかである。

もう一つの大きな疑問は弾丸が体内から見つからないことである。金属の弾丸なら、射出口がないなら、必ず体の中に弾丸が見付かるはずである。見つからない以上、使った弾丸は金属のものでなく、薬剤のような体の中で溶けてしまう弾丸であったということだろうか。このような特殊な弾丸をスナイパーが離れた距離から打って確実に命中させることは難しいだろうから、スナイパーが撃った可能性は低いだろう。一番考えられるのは、介護を装い、消音銃で首から心臓に向けて撃ったことである。

治療にあたった福島教授が心臓の壁に穴があいていたと言っているのに、解剖所見でこのことをまったく言及しないのはどういうことだろうか。心臓の壁に穴があいておれば、当然死亡の原因になる。

体内から弾丸が見つからなかったというのは、まったくの嘘かもしれない。弾丸が見つければ、それが山上容疑者の撃ったものであるかどうか、すぐにわかる。山上容疑者の撃った弾丸でなければ、山上容疑者が殺害したのではなく、真犯人は別にいることの決定的な証拠になる。それが都合の悪い人がおり、関係者に圧力をかけ、弾丸は見つかっていないと言わせたのかもしれない。

参考文献

1. 朝日新聞デジタル (2022)「死因は失血死、致命傷は左上腕からの銃弾 安倍晋三元首相の司法解剖」. <https://news.yahoo.co.jp/articles/2a4efd35c9b28e993b64a5060dfa8f312a394dd5>(2022年7月17日アクセス)
2. 読売新聞オンライン (2022)「首に二つの銃創・心臓の壁に穴、輸血と止血に4時間半『できること尽くしたが…』」. <https://www.yomiuri.co.jp/national/20220708-OYT1T50257/>(2022年7月17日アクセス)